第 8 回企画展「学術模型が拓く研究の最前線 - 広島大学のチカラ PART2」

2014 年 10 月 31 日～ 11 月 15 日
学生プラザ 1F

企画展ポスター

会場入口

会場設営中の学生

クロスワードを片手にパネルを読む来場者

学生による展示解説の様子

会場の様子

3D プリンタの展示（実演中）

団体解説の様子

接客対応をする学生

郵便局交差点に設置した看板

講演会（出雲大社）の様子
参加者：38 名

ミュージアムカフェ（医学模型）
参加者：30 名

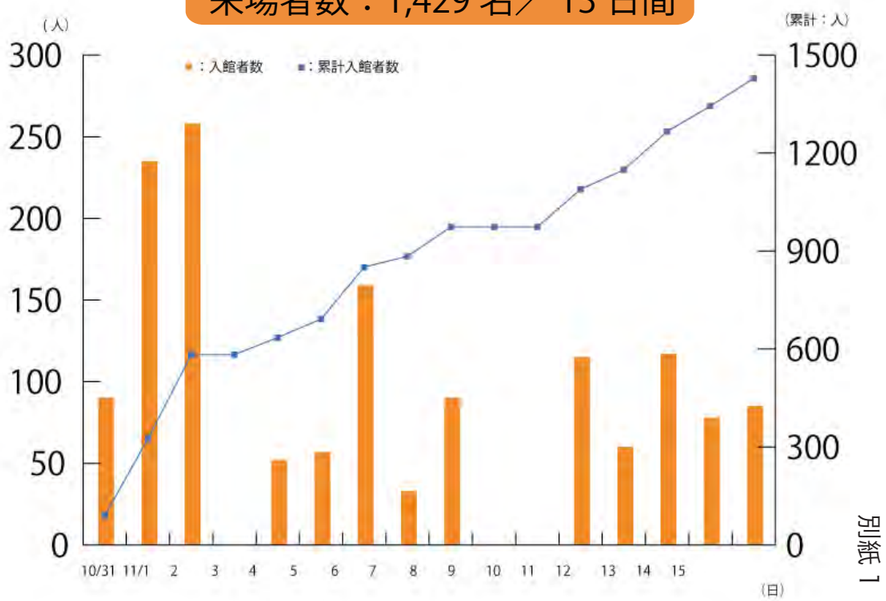
講演会（星野木骨）の様子
参加者：58 名

ミュージアムカフェ（安土城天主）
参加者：43 名

模型で学ぶ
研究最前線
広島大で企画展
拓く研究の最前線」が31日、広島大（東広島市）の学生プラザで始まった。模型の役割や精巧さ、面白さを伝える＝写真。15日まで。
約50点が並ぶ。古文書などから復元した旧出雲大社本殿、安土城天主の模型は研究の成果を分かりやすく示していると紹介している。医学機能模型は人が食物を飲み下す構造が分かる。3D プリンターで製作した骨や臓器の模型もあり、実際の手術で使っている。江戸時代に広島で作られた日本最古の人体骨格模型「身幹儀」のレプリカもある。
期間中、展示模型関連の講演もある。
（新本恭子）

11 月 1 日付
中国新聞

来場者数：1,429 名／ 13 日間



別紙 1